

陳情番号	件名
第1号	ライドシェアの推進に対する慎重な検討を求めることについて
受理年月日	
31.1.29	

## 陳情の趣旨

### 陳情の趣旨

ライドシェアの推進に対する慎重な検討を求める意見書を国に提出していただきますよう陳情いたします。

### 陳情の理由

タクシー市場特有の供給過剰への対応をより効果的に進めながら、タクシーの安全性やサービス水準を一層向上させることを目的として、「特定地域及び準特定地域における一般乗用旅客自動車運送事業の適正化及び活性化に関する特別措置法等の一部を改正する法律（以下「改正タクシー特措法」という。）」が、与野党共同提案の議員立法により賛成多数で可決・成立し、平成26年1月に施行されました。

一方、政府においては、シェアリングエコノミー検討会議を設置し、ライドシェア（自家用自動車を用いて有償で運送を行うサービス）を含めた検討を行っており、さらに、規制改革推進会議においてもライドシェアを含めた議論がなされています。このライドシェアについては、いわゆる白タク行為（道路運送法に抵触するタクシー類似行為）に該当するとの指摘があり、また、運行管理や車両整備等の責任を負う主体を置かず自家用自動車のドライバーのみが運送責任を負う形態であるため、安全確保や利用者保護の観点から大きな問題が生じる懸念が指摘されており、改正タクシー特措法の意義を損なうことが危惧されます。

よって国会及び政府にライドシェアは、利用者の安全・安心に極めて大きな懸念があり、さらに、改正タクシー特措法の意義を損なうことが懸念されるため、十分慎重な検討・対応を要望致します。

陳情番号	件名
第2号	未熟児に関する医療の充実を求めることについて
受理年月日	
31.1.29	

### 陳情の趣旨

#### 請願（陳情）の趣旨

小児医療費助成  
児童手当の所得制限制度に関し、未熟児を持つ世帯について以下のような制度を市に対して求めていますよう陳情致します。

- (1)未熟児を持つ世帯については所得に関係なく小児医療費を中学3年まで無料
- (2)未熟児はウイルス感染予防注射費について1歳以上を無料
- (3)上記(1)(2)が無理な場合、未熟児を持つ世帯は所得制限の限度額を上げる(1000万円以上等)

#### 請願（陳情）の理由

私は37歳で妻と11ヶ月の娘がいます。娘は昨年2月に未熟児(超低出生体重児(1000g未満))で生まれました。相模原市は北里大学病院を筆頭に産科の医療環境に優れており、娘も北里大学病院にて早期の段階で発育異常を発見していただきました。今は少し他の子より成長は遅いものの健やかに育っています。現在娘はウイルス感染予防注射であるシナジス注射を無料で打たせて貰っています。大変感謝しています。しかし、まもなく1歳を迎える時、信じられない言葉を病院から受けました。「所得制限の限度額を超える人は1歳以降子供のシナジス注射は有料です」というものです。一回2本で18万円、保険適応で5万円もする注射代を支払えというのです。私の年収は920万円程度で相模原市の所得制限をギリギリ超えてしまっています。妻は全身性エリテマトーデスを患っており長時間の勤労が難しく今後専業主婦になる予定でほとんど所得はありません。通院しており年間高額な医療費がかかっています。

年収2000万円も3000万円もある人なら大したことはありませんが、ギリギリ所得制限の限度額を超える人にとって、シナジス注射代は到底払える金額ではありません。シナジス注射は残り半年くらいまでは打つ必要があるとのことで残り5、6回の注射は断念せざるを得ませんでした。これでもし娘に何かあれば相模原市を許す事はできません。未熟児はただでさえ体が他の子より弱く、通院する可能性は高いのです。未熟児を持つ家庭に対する待遇を見直していただきたいと思います。

必ず市議会の議題として取り上げ、私の納得できる解決策を出し、回答を送付願います。

陳情番号	件名
第 3 号	小児医療費助成の所得制限の見直しを求めることについて
受理年月日	
31. 1. 29	

### 陳情の趣旨

#### 請願（陳情）の趣旨

~~児童手当~~ 小児医療費助成の所得制限の対象を養育者（父母のうち所得の高い人）でなく、父母の所得合計に変更するよう市に対して求めていただくよう陳情致します。

#### 請願（陳情）の理由

私は 37 歳で妻と 11 ヶ月の娘がいます。娘は昨年 2 月に未熟児(超低出生体重児(1000g 未満))で生まれました。相模原市は北里大学病院を筆頭に産科の医療環境に優れており、娘も北里大学病院にて早期の段階で発育異常を発見していただきました。今は少し他の子より成長は遅いものの健やかに育っています。私の年収は 920 万円程度で相模原市の所得制限をギリギリ超えています。妻は全身性エリテマトーデスを患っており長時間の勤労が難しく今後専業主婦になる予定でほとんど所得はありません。通院しており年間高額な医療費がかかっています。更にまもなく 1 歳を迎える未熟児の娘の医療費が今後発生いたします。未熟児は体が弱く医療費がかかる可能性が高いと言われてしています。

相模原市の所得制限の上限がそもそも低すぎます。更に父母の所得が多い方の金額のみ対象とされるのは明らかに不平等です。例えば夫婦で共に年収 700 万円、世帯収入 1400 万円の世帯は子供の医療費がタダ。私のような年収 920 万、世帯収入 920 万円の世帯は所得制限の上限を上回り子供の医療費がかかる。どう考えても不平等です。医療費の所得制限限度額の考え方を見直すべきです。所得制限の上限値をあげる、対象を世帯収入とする、または所得制限制度をやめて、一律 500 円にする等です。必ず市議会の議題として取り上げ、私の納得できる解決策を出し、回答を送付願います。

陳情番号	件名
第4号	相原高校の保存樹クスノキと同校の緑地を保存し、橋本の緑と安心を守ることを求めることについて
受理年月日	
31.2.8	

### 陳情の趣旨

#### 〔陳情項目〕

相原高校の保存樹クスノキを残し、同校の緑地を保全し、橋本駅前の防災拠点(広域避難場所・帰宅困難者対策等)として、市民の安全安心を守るために移転跡地を整備することを市に働きかけるよう陳情します。

#### 〔陳情趣旨〕

相原高校の開校記念に植樹されたシンボルツリー・樹齢100歳(100年)のクスノキは、市の保存樹木に指定されていますが、2019年4月に高校が移転すると、リニア駅建設と南口開発のために伐られてしまいます。校内にある1000本150種類の木々もほぼ全部伐られ、肥沃な畑も庭園もなくなろうとしています。

移転に伴い相原高校は広域避難場所でなくなって、壁で遮断された工事ヤードの状況が10年続き、工事後もコンクリートと高層ビルの街と化します。市は代わりに小中学校を広域避難場所に指定し、避難所・一時避難場所と兼ねさせる計画ですが不安です。東日本大震災のとき800人の帰宅困難者を受け入れ、高層マンションからの避難者も滞在した相原高校は、重要な駅前防災拠点です。

橋本地区の緑被率はわずか9.7%旧市内で最低で、高校がなくなればさらに下がり、災害被害の規模拡大を招きかねません。相原高校は地域住民が土地とお金を寄付して関東大震災の年につくられました。防風防砂林を植え、農業と緑の恵みを大切にされた当時の人々の思いに学び、後世に渡って守り続けていくべき橋本の宝であり、誇りです。市は緑豊かな環境と住民の安心安全を第一に考えて相原高校移転跡地を整備すべきです。そのために、市議会におかれましては、市に対して最大限の働きかけをしていただきますようお願い申し上げます。

陳情番号	件名
第5号	橋本駅南口開発にあたり、歴史ある相原高校の知恵と記憶を活かした街づくりをすることについて
受理年月日	
31.2.8	

### 陳情の趣旨

日本人の苗字を見ると、植物・動物・地形・生活が入ったものが多いことに驚かされます。

議長の「氏」は「沼倉さん」ですね。一方、氏名の「名」は親や身近な人たちから生まれてきた子への思いが詰まっています。議長は「孝太さん」。

2019年度をもって移転する県立相原高校は、1923年の開校以来、橋本の地で日本人の心技体を育んできました。

96年の歴史の中で、多くの優秀な人材を輩出し、中でも現在、市長にまでなっておられるのを喜んでいる先生方や学校関係者は少なくないでしょう。10年ほど前までは、市職員の要職の多くは相原高校出身者だったそうですね。30年前、校長先生をされていた方のお話によれば、相模原市の園芸業者はほぼ同校出身だとか。生徒たち一人ひとりがゆとりある空間、校風によって大切に育てられて来た賜物でしょう。

地域の住民もまた、相原高校とともに生き、多くの恩恵を受け、成長してきました。その連続性と歴史をそのままに、相原高校スピリッツを活かした街づくりはできないものでしょうか。もちろんリニア中央新幹線の工事をする中では、すべてを残すことは無理でしょう。しかし、その中にあっても、随所に相原高校の記憶と知恵を感じられる街、それを意識して考えていけば、日本中にも類を見ない思想と斬新さを併せ持った街を整備できるのではないのでしょうか。

2011年 3月11日に起きた東日本大震災は大変不幸な出来事でした。

これは個人的なことですが、その中で唯一よかったことがあります。それは、停電が続く中で、寒さ暗さに耐えながらも、工夫をし、五感を磨いて生きていく姿勢を思い出したことです。続く夏には、出来るだけ電気を使わないで済むように、北と南の窓を開け、簾をかけ、手拭いを濡らして首に巻きました。私が生まれ育った昭和の懐ましく美しい所作です。

橋本駅南口の街づくりを考える上でも、そうした心技体で発想してはいかがでしょうか。私たちの会では来たる3月10日、16日と相原高校散策会を催します。その折に卒業生、住民、市民、市長、市と県の職員、市と県の議員、OBの園芸業者、現役の先生、生徒さんたちが相原高校と意思に遊びながら考える。

次に専門家も入って具体化していきながら、少しだけ時間をかけて、橋本の地にある相原高校にお別れをしていく。畑の土、木の1本いっぽんを愛おしむ。農業をしてきた高校だけに、想像の翼を広げてすべてを戴き、血となし肉とする。できれば、住民・市民、OBの園芸業者と一緒に、何を残して何を失くすのか決め、宮大工よろしく自らの手で丁寧に片付ける。そうした作業はリ

ニア駅工事を担うJR東海には難しいことではないでしょうか。そして、慈しみを持って96年の歴史を終わらせることができれば、次の100年先の評価に耐え得る街を創出できるように思います。

駅前なのにさまざまな鳥が舞い、セミが鳴き、たくさんのカマキリがいるような公園や市民農園はいかがでしょう。一旦、3千坪の敷地を更地にしてしまえば、魅力がなくなってしまう。96年の時と一緒に生きてきた正門脇のクスノキ、ヒマラヤスギ、これらの大木をできるだけ生かしていく。実からシャボンの成分や羽根付きの玉が取れるムクロジ、手紙の木と言われるタラヨウ、イチヨウ並木やメタセコイア、言い始めたら切りがないですね。

#### ●陳情項目

どうか賢明な相模原市議会議員の皆様におかれましては、もう少しだけ時間をかけて、どこにもある個性のない駅前開発ではなく、魅力的でワクワクする街、しかもできるだけお金をかけずに経済効果の上がる計画にしていこう、市に働きかけていただくよう陳情します。 急激に温暖化が進み行く今、100年先を見据えた街づくりが求められているのではないのでしょうか。